

令和6年度

昼間学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、様々な活動を通して、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばす授業の実践
- ②児童が、自らの目標を持ち、主体的に学びに向かう学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

【各校の取組状況の把握について】

中間期と年度末に担任が取組状況について報告し、学力向上検討委員会において検討し、見直しを図る。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習課題に対し、やり遂げようとする意欲が高まり、基礎基本の学習に進んで取り組んでいる。 ●漢字の読み書き、語句の意味や使い方の理解、計算など、基礎基本の定着が十分でない児童があり、個人差がある。	自分の学習の到達度に応じた課題に積極的に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を着実に身に付けることができる。	①プリント学習や GIGA 端末を使ったドリル学習等で基礎・基本の定着を図り、単元テスト到達率80%以上を目指す。 ②ノートや GIGA 端末等を活用し、自分の学習を振り返る時間を設定することで、次時の学習への意欲を高める。	日記の宿題や、教科書以外の多様な問題に取り組む事により文章構成力と実践力を養う。また、読書の機会を増やし、音読やドリル学習を習慣化することで学力の向上につなげる。補助計算など問題を解決するための手段をかく習慣をつける。	①プリント学習や GIGA 端末を使ったドリル学習を繰り返し行うことで、基礎、基本の定着が進み、単元テスト到達率は80%以上だった。 ②振り返りを行うことで、自己の学習状況の把握につながったが、次時への学習意欲の向上には十分至っていない。	①文章読解力や文章構成力を身に付けさせるために、年間を通して朝の活動で読解ドリルに取り組む。また、引き続きプリント学習や GIGA 端末を使ったドリル学習等で基礎・基本の定着を図る。 ②振り返りの手引きやルーブリックを活用し、学習めあてや個別の課題を設定できる授業展開を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対する自分の考えを伝えようとする児童が増えている。 ●文章や図などから必要な情報を読み取り、整理・分析する力が十分に身につけていない。 ●目的や意図に応じて文章を書くことが苦手な児童が多い。	情報を正しく読み取り、それをもとに、自分の考えを深め、筋道を立てて伝えることができる。 文章の構成を意識し、自分の考えを目的や意図に応じて書き、まとめることができる。	①学習ツール(ロイロノート)をもとに思考ツールを中心とした学習を進め、ペア学習やグループ学習等、協働的に学ぶ場面を取り入れ、情報活用能力を高める。 ②文章を読む機会を設け、文章の構成や主述関係や指示語などに着目して文章を読み取る力を伸ばし、書く力につなげる。	週に1回程度、目的を持って文章を読む機会を設ける。書いたものを掲示し多様な考え方に触れることで、児童が自分の考えを広げられるようにする。様々な話し合いの場を設定し、自分の考えを伝える経験を増やす。	①情報を活用したり収集したりする力がついてきている。思考ツールを用いて自分の考えを整理したり、友達の意見との比較をしたりすることに慣れてきたが、わかりやすくまとめたり整理したりするには課題がある。 ②文章を読解する力や構成する力はまだ回数と練習が必要である。	①思考ツールを用いて自分の考えを整理することで、相手・目的意識をもたせて、わかりやすい文章になっているか思考させる。 ②週末課題や朝の活動等を活用し、様々なジャンルの文章を読む機会を増やす。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○宿題や決められた課題には、進んで取り組むことができている。 ●自分に合った学び方に気付き、学びを進めていくことに課題がある。	自分自身で目標を設定し、目標に応じた方法や内容を選択し、取り組むことができる。	①自主学习ノートや学習方法を紹介し、児童が学習内容を選択できるようにする。 ②「家庭学習チェック表」を継続して活用し、自分でめあてを決めて取り組めるようにする。	自主学习の幅を広げるとともに、各自の取り組みを共有する機会を設ける。また、クラウドを活用して学習の足跡を残したり、ルーブリックを活用して自分の学び方を振り返らせたりし、成長を実感させる。	①自主学习ノートや学習方法を紹介したり振り返ったりしたが、取り組みに個人差が見られた。 ②「家庭学習チェック表」のめあてを意識して取り組んでいる児童もいるが、持続的に活用できていない児童もいる。	①自主学习の様子をポートフォリオ化し、他の児童も共有できるようにする。 ②「家庭学習チェック表」の形式を変更し、フィードバックの機会を定期的に設ける。

令和6年度 学力向上ロードマップ

